

人 生きゆく島 沖縄と文学



浅田 次郎
(撮影: 森清)



吉岡 忍

日時 2018年5月20日(日)
開場 12時 開会 13時 終演 17時(予定)
会場 沖縄コンベンションセンター・劇場棟
参加費 1200円(前売 1000円)
*中・高校生は学生証等提示で無料
定員 1000名
先着順・定員になり次第締め切ります。



落合 恵子
(撮影: ©神ノ川智早)



金平 茂紀



ドリアン 助川



八重 洋一郎



又吉 栄喜

<プログラム>

総合司会 佐渡山 美智子

琉球舞踊(沖縄国際大学琉球芸能文学研究会)

開会あいさつ 吉岡 忍 日本ペンクラブ会長

来賓あいさつ 翁長 雄志 沖縄県知事

基調講演

「沖縄で考える戦争と文学」 浅田次郎 前日本ペンクラブ会長

パネルディスカッション — 沖縄と文学 —

浅田 次郎・大城 貞俊・落合 恵子・金平 茂紀

川村 湊・ドリアン 助川・又吉 栄喜・八重 洋一郎

吉岡 忍

閉会あいさつ 山田 健太 日本ペンクラブ専務理事

主催: 一般社団法人日本ペンクラブ

協力: 平和の日@沖縄 現地実行委員会

(名誉顧問・大城立裕 代表・又吉栄喜 事務局長・大城貞俊)

協賛: 沖縄タイムス、琉球新報、かりゆしグループ、株式会社カルチャープロ、株式会社東京堂、有限会社富山房

後援: 沖縄県、沖縄県教育委員会、那覇商工会議所、沖縄中小企業家同友会、沖縄弁護士会、朝日新聞社那覇総局、毎日新聞社西部本社、読売新聞社西部本社、NHK 沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送、琉球放送、エフエム沖縄、ラジオ沖縄



川村 湊



大城 貞俊

☆前売券はe+ イープラス

e+ イープラス

[PC/携帯] <http://eplus.jp>
<直接チケットページへ>
→ <http://sort.eplus.jp/sys/T1U14P0010843P006001P002252096P0030001>

e+ イープラス(無料の会員登録必要)で購入申込み、ファミリーマート店頭にて現金で代金を支払い、チケットを受け取る場合は手数料がかかりません。

出演者プロフィール (アイウエオ順)



(撮影：森清)

浅田次郎(あさだ じろう) 作家。1951年生れ。東京都出身。日本ペンクラブ前会長(2011年～2017年)。1997年『鉄道員』で直木賞、2000年『壬生義士伝』で柴田錬三郎賞、2006年『お腹召しませ』で中央公論文芸賞・司馬遼太郎賞、2008年『中原の虹』で吉川英治文学賞、2010年『終わらざる夏』で毎日出版文化賞、2017年『帰郷』で大佛次郎賞を、それぞれ受賞。2017年現在、直木賞、吉川英治文学賞、渡辺淳一文学賞選考委員。近著に『おもかげ』『長く高い壁』など。



大城貞俊(おおしろ さだとし) 元琉球大学教授、詩人・作家。1949年、大宜味村生まれ。1992年小説「椎の川」で具志川市文学賞、1997年「山のサバニ」で沖縄市戯曲大賞、2005年「アトムたちの空」で文の京文芸賞、その他、九州芸術祭文学賞佳作、山之口獏賞、沖縄タイムス芸術選奨大賞、やまなし文学賞佳作、さきがけ文学賞などの受賞歴がある。他に評論『沖縄戦後詩史』、小説『G米軍野戦病院跡辺り』、近著に『奪われた物語－大兼久の戦争犠牲者たち』など。



(撮影：©神ノ川智早)

落合恵子(おちあいけいこ) 作家。1945年生まれ。執筆と並行して、東京、大阪に子どもの本の専門店クレヨンハウス、女性の本の専門店ミズ・クレヨンハウス等主宰。総合育児雑誌「月刊クーヨン」、オーガニックマガジン「いいね」発行人。子ども、高齢者、女性、社会が「障がい」と呼ぶものがあるひとなど、社会構造的に「声の小さい側の声」をテーマにした作品多数。最近の主な著書「質問 老いることはいやですか？」(朝日新聞出版)「『わたし』は『わたし』になっていく」(東京新聞出版部)他多数。



金平茂紀(かねひら しげのり) ジャーナリスト。テレビ報道記者、キャスター。早稲田大学大学院客員教授。1963年北海道生まれ。東京大学文学部社会学科卒。1977年TBS入社。以降、同社で、報道局社会部、「ニュースコープ」副編集長、モスクワ支局長、ワシントン支局長、「筑紫哲也NEWS23」編集長、報道局長などを歴任。2010年9月より「報道特集」キャスター。2004年度「ボーン・上田記念国際記者賞」受賞。その他番組を通じて、ギャラクシー賞、JCJ賞など受賞。2016年3月執行役員退任にともない退社。著書に『沖縄ワジワジー通信』(七つ森書館)、『抗うニュースキャスター』(かもがわ出版)など多数。最新刊『白金猿－ポスト安倍政権への政権への対抗軸』(白井聡、猿田佐世両氏との共著かもがわ出版)。



川村湊(かわむら みなと) 文芸評論家。1951年北海道生まれ。1974年法政大学法学部卒業。法政大学国際文化学部教授。専門は日本現代文学・文芸批評。1983年「異様なものをめぐって—徒然草論」で第23回群像新人文学賞評論部門優秀作受賞、1994年「南洋・樺太の日本文学」(筑摩書房)で第23回平林たい子文学賞受賞、2000年『補陀落』で第十五回伊藤整文学賞(評論部門)受賞、2008年には『牛頭天王と蘇民将来伝説』で読売文学賞(紀行・伝記部門)受賞等。現在、「川村湊自選集」(全5巻)を作品社から刊行中。



ドリアン助川(どりあん すげがわ) 道化師・作家・詩人。1962年東京都生まれ。早稲田大学第一文学部東洋哲学科卒業後、放送作家などを経て、1990年「叫ぶ詩人の会」を結成。詩の朗読とパンクロックを組み合わせたパフォーマンスが話題となる。『バカボンのパパと読む「老子」』『多摩川物語』(ポプラ社)など著書多数。著作は海外で翻訳出版され、小説『あん』(ポプラ社)は2017年フランスのDOMITYS文学賞と、「読者が選ぶ文庫本対象2017」を受賞した。



又吉栄喜(またよし えいき) 小説家。1947年、浦添市生まれ。1976年「カーニバル闘牛大会」で琉球新報短編小説賞。1978年「ジョージが射殺した猪」で九州芸術祭文学賞。1980年「ギンネム屋敷」ですばる文学賞。1996年「豚の報い」で第114回芥川賞受賞。他の作品に『波の上のマリア』『海の微睡み』『陸蟹たちの行進』『人骨展示館』『呼び寄せる島』など。英訳、仏語訳、イタリア語訳、韓国語訳、ポーランド語訳、中国語訳された作品も多い。



八重洋一郎(やえ よういちろう) 詩人。1942年、石垣市生まれ。東京都立大学哲学科卒業。1984年詩集『字彙』で第9回山之口獏賞、2001年『夕方村』で第3回小野十三郎賞、2001年沖縄タイムス芸術選奨大賞の受賞歴がある。その他の詩集に『素描』『しらはえ』『トロジー』『白い声』『木漏陽日蝕』など、エッセイ集に『記憶とさざ波』『若夏の独奏』、詩論集に『太陽帆走』『詩学・解析ノート わがユリイカ』などがある。近著の詩集『日毒』で注目されている。



吉岡忍(よしおか しのぶ) 作家。1948年長野県生まれ。1987年、日航機墜落事故を描いた『墜落の夏』(新潮社)で講談社ノンフィクション賞受賞。1999年、日本ジャーナリストクラブ大賞受賞。2011年の東日本大震災では、テレビ東京系で特番「生きなおす」取材・制作。同年、ゲスト出演のNHK番組「奇跡の生還」は国際エミー賞受賞。BPO放送倫理検証委員会の委員、委員長代行(2007～13)を務め、約20件の放送不祥事の意見書をまとめる。主な著書に『「事件」を見にゆく』『M/世界の、憂鬱な先端』(以上文藝春秋)、小説『月のナイフ』(理論社)など。昨年6月、第17代日本ペンクラブ会長に就任。